



潟小だより

上越市立大潟町小学校

E-mail ohgata-e@jorne.or.jp

令和3年10月



1年 生活 らてちゃんをパチリ



2年 図工 どうやって塗ったらいいかな

活用が進むタブレット端末

GIGA スクール構想で1人1台のタブレット端末が整備されて半年、授業での活用が日常化してきました。タブレット端末は、ノートや鉛筆のように当たり前にある文房具のような存在。文房具との違いは、活用方法が無限に広がっていることです。

その一方、授業中にもかかわらず、勝手に人気ゲームのことを検索したり、人の嫌がる言葉を書き込んだりした例があり、使いながらルールの徹底を図っています。

上右の写真は、絵の具を塗る子供の手元を映し、効果的な塗り方を確認しています。高学年では、朝、登校したら子供が自分の端末を起動し、学級担任があらかじめ入力しておいた一日の日程を確認するなど、ほとんどの時間で端末を使っている学級もあります。学級担任も、子供のノートを撮影し大型テレビに映し出して、発表の補助をしています。視覚と聴覚で考え方を共有できるので、理解が一層進みます。

10月8日には、端末を初めて家庭に持ち帰りました。学校と家庭の双方で端末を使うことでこそ、GIGA スクール構想の効果が期待できます。そのためには、各家庭の理解と協力が不可欠です。学習を広げ深めるツールとして、また、学校での学びを家庭に見ていただくツールとしても役立てていきます。

HP 随時更新中





ザリガニを釣り上げてつかんで見せる2年女子。さおを持つ右手はVサイン。

10月は、新潟県いじめ見逃しゼロ強調月間

町田市で配付された端末を使っていじめを受けた6年生が自ら命を絶った事案は、社会に大きな衝撃を与えました。使い方を誤ると人の命をも奪うことになるインターネット・SNS。いじめが取り返しの付かない事態にまで行き着くことに、当事者は思い至りません。さらに、新型コロナウイルスに関わる誹謗中傷も後を絶ちません。

私たちは、自分と同じように他の人も大切に思い、いじめをしない、許さない、見逃さない強い信念をもって、互いに思いやり支え合う社会を築いていかなければなりません。

新潟県いじめ問題対策連絡協議会としての共通メッセージ

- 令和2年12月に制定された「新潟県いじめ等の対策に関する条例」を踏まえ、いじめを防ぎ、県民みんなで児童生徒が健やかに成長することのできる環境の整備に取り組む。
- いじめは、いじめを受けた児童生徒の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は心身に重大な危険を生じさせるおそれがある。
- いじめの問題は、児童生徒だけの問題ではなく、心豊かで安全・安心な社会をいかにしてつくるかという、県民みんなで考えていくべき課題である。
- 新潟県いじめ問題対策連絡協議会では、いじめに悩む児童生徒を救うために、学校、家庭、地域、その他関係機関が強いネットワークをつくり上げる。
- 「いじめをしない！決して見逃さない！決して許さない！」「見て見ぬふりはしない！みんなで声を掛け合う！」を合い言葉にして、いじめ防止に全力で取り組む。
- 「SNS等の危険性に関する保護者・地域への意識啓発」と「家庭での望ましいネット利用のあり方」に焦点を当て、「ネットいじめの防止」の取組を展開し、いじめの未然防止に努める。
- 今年度は「感染症に関するいじめの防止」に県民全体で取り組む。

いじめ防止のため、新潟県小学校長会から要請があり、本メッセージを掲載しました。各家庭・地域でいじめ問題について考える機会にしてください。